

倫 理

第1 高等学校教科担当教員の意見・評価

1 前 文

令和3年度（第1回）大学入学共通テスト（以下「共通テスト」という。）の倫理の問題作成の方針は以下のとおりである。

人間としての在り方生き方に関わる倫理的諸課題について多面的・多角的に察する過程を重視する。文章や資料を読み解きながら、先哲の基本的な考え方等を手掛かりとして考察する力を求める。問題の作成に当たっては、倫理的諸課題について、倫理的な見方や考えを働かせて、思考したり、批判的に吟味したりする問題や、原典資料等、多様な資料を手掛かりとして様々な立場から考察する問題などを含めて検討する。

ここでは、本年度の問題について以下の視点から分析し、上記の方針に基づいたものとなっているかどうかについて評価したい。

- (1) 問題作成方針を踏まえて、知識の理解の質を問う問題や思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる問題の出題も含め、バランスのとれた出題となっているかどうか。
- (2) 高等学校学習指導要領の範囲内から出題されており、特定の分野・領域に極端に偏っていないかどうか。
- (3) 出題される資料等が、特定の教科書に偏っていないかどうか。
- (4) 高等学校における学習の過程を意識した問題の場面設定がなされた問題が含まれており、その場面設定が、教科・科目の本質に照らし必然性のある形で出題されているかどうか。
- (5) 試験問題の構成（設問数、配点、設問形式等）は適切であるかどうか。
- (6) 文章表現・用語は適切であるかどうか。
- (7) 問題の難易度は適正であるかどうか。
- (8) 得点のちらばりは適正であるかどうか。

2 内容・範囲

第1問 「恥」について（源流思想）

「恥」にまつわる先哲の様々な思想を述べており、受験者へのメッセージ性がある場面設定である。高校生の会話という日常の場面から共同体や社会への貢献をめぐる考え方や、自分の内にも外にも原因を持ち得る「恥」の捉え方の意味を多面的・多角的に考察するという学習過程を重視している。全体としては、バランスの取れた標準的な難易度の良問である。

問1 共同体や社会をめぐる思想について問われている。①のペテロによる教団の形成が基本的な知識として解答出来る。④は、ムスリムの共同体についての細かい知識が問われており、全体として、やや難易度が高い設問である。

問2 「恥」と関連付け、パウロの言葉から「信じる者すべてに救いをもたらす神の力」がユダヤ人だけでなく異邦人にもたらされるという福音の正確な理解が求められている。律法主義と福音との違いも問われ、平易だが信仰の意味を問う良問である。

問3 自己の生活における心の平安を求めるエピクロス派とストア派の思想について理解を問うやや難易度の高い設問である。

問4 恥じ入ることは「慚愧に堪えない」という意味について、上座部仏教の資料や選択肢

を読み進めることで恥に関わる概念の理解につながる設問である。標準的な難易度ではあるが日常生活の場面と先哲の思想を関連させ自分自身に置き換えて考察させる良問である。

問5 恥の感情と規範や社会秩序との関係について問うものであるが、資料との関連性が薄く、選択肢について、正確な知識があれば解答できる設問となっている。

問6 荘子の儒家や墨家への批判についての知識を、資料や選択肢の吟味を通して活用し、多角的に課題の意味を考えさせるやや難易度の高い設問である。倫理的課題を批判的に吟味させるという点で工夫が見られる良問である。

問7 イスラームの「戒律に則った経済活動」を問うており、日常生活の規範の理解から新しい視点を生み出す工夫が見られ、やや難易度の高い設問である。

問8 恥と名誉の関係について、2人の思想家の主張を資料の内容を吟味させる、読解力を問う設問である。選択肢の作りから、正答を導くのは容易であるが、メッセージ性はある。

第2問 「時間の捉え方と人生観・世界観」について（日本思想）

日本思想の分野としては初めて図版を登場させたり、ギリシア思想の引用を用いたりするなど意欲的な取組みが見られた。一方で、絵画資料をどのように活用していくのか、その活用方法について検討の余地があるだろう。古代から現代までバランス良く出題されており、大問全体としては標準的な難易度である。

問1 日本の神々についての理解をもとに、論理的思考に基づき資料を読み取らせる設問である。資料にヘシオドスの『神統記』を用いており、日本思想と源流思想の融合を試みた意欲的な設問である。

問2 日本思想の問題で初めて絵画資料を用い、絵画資料をもとにノートに書かれた記述や知識を活用して考えさせる良問であり、今後もこのような工夫を続けてほしい。

問3 道元の思想についての理解を問う標準的な難易度の設問である。

問4 江戸時代の儒者についての総合的な理解を問う設問で、難易度も標準的なものである。

問5 石田梅岩と井原西鶴についての知識を問う標準的な難易度の設問である。商人の身分階級について批判的に吟味させるような工夫があるとさらに良かったのではないか。

問6 小林秀雄、丸山真男、吉本隆明は、それぞれ教科書本文での扱いも少なく、その考え方に踏み込んで学ぶ機会が余りない受験者にとっては難しい設問である。

問7 南方熊楠の思想についての知識を問う標準的な難易度の問題である。

問8 高村光太郎の思想内容を資料から読み取る設問。丁寧に読み取れば正答を導ける平易な選択肢であったので、会話文の「時間」というテーマとの関連性を高め、倫理的概念を使わせたりするなど、もう一工夫を期待したい。

第3問 良心について（西洋近現代思想）

眼前の敵を撃つ瞬間の兵士のためらいの話から、良心をめぐる西洋近現代思想の流れをたどり、最後に日々の生活の中で自分なりの答えを探し求めることについて問いかけている。設問ごとに資料や会話文などがついていてものが多く、読解にやや時間がかかるかもしれないが、全体的に大学入試センター試験（以下「センター試験」という。）と比べて大きな変化は見られなかった。

問1 ルターの思想についてエリクソンが論じた資料を読み取る標準的な難易度の設問。西洋近代思想で学習するルターについて、青年期で学習する現代の心理学者・精神分析学者エリクソンが論じた資料を用いたところに、分野横断的な試みが見られる。

問2 デカルトの^{こうまい}高邁の精神の内容についての理解を問う難しい設問。リード文でデカルトについて述べた部分が「情念を主体的に制御する」高邁の精神の内容と重なり、正答を導

く際の参考になる。

問3 資料『エミール』についての設問。選択肢がルソーの思想を身近な事例に置き換えたものとなっており、思考させ、思想への理解を深めさせることができる。高校の授業で積極的に取り上げることができる素材である。

問4 キルケゴールの実存の三段階についての基本的な理解を問う標準的な難易度の設問。

問5 空想的社会主義者についての基本的な知識を問う平易な設問。思想家たちと現実について説明した文章中のa, bいずれかに、内容について説明するような文や文脈を読み取ることが必要な選択肢を用意するなど、もう一工夫がほしい。

問6 フッサールの現象学についての理解を問うやや難しい設問。フッサールの現象学の詳しい内容まで理解している受験者は多くはない。また、「自己を外化する」という言葉とヘーゲルを結びつけ、イはフッサールの思想ではないと判断するのは難しかったであろう。

問7 『君たちはどう生きるか』についての会話文についての設問。aの選択肢としてアカイ、bの選択肢としてウカエに限定されているので、平易な設問となっているが、いじめを止められなかった後悔について考察させる良問である。

問8 リード文に関連した良心についての会話文の読解問。設問に用意された会話文としては長めであり、先生Tの発言内容も示唆に富んだものであるが、読み進めていくと、最後のTの発言から正答を導くことができるため、結果として平易な設問となった。

第4問 歴史の多様性と捉え方について（現代の諸課題と心理）

「歴史」に関する高校生どうしの会話文に始まり、それを踏まえさせる形で同じ生徒どうしの追加の会話文を読んで解答する設問が見られた。今後注目されていくであろう思想家も数多く取り上げられ、初見の受験者には難解な印象を与えるが、正確に文脈を読解すれば正答を導ける。思想内容をおさえた上で、的確な資料の読み取りを求める設問が多かった。

問1 「知の考古学」や文化相対主義については教科書の理解で誤りと分かるが、リオタールやヨナスは教科書でも扱いが小さく、細部の学習ができていない受験者は正解するのが難しかったであろう。

問2 ユングとクレッチマーは判別できても、多くの受験者はシュプランガーとオルポートで苦慮したと想像する。

問3 リップマンの主張を問いかけ文から読み取る設問。リップマンの主張を知らずとも、設問文を的確に把握するとアが誤りと容易に判別できる。そうすると、③以外の選択肢は排除できてしまう。選択肢を工夫されるか、思考力等を問うもう一工夫を期待したい。

問4 フロイトの心の構造の基本的な理解があればよく、文章の読み取りも平易な内容であるため、容易に正解できる。

問5 バリアフリーの具体例を問う設問。正答となる②だけ異質な印象があり、また他の選択肢が常識的な内容であるため、非常に平易であり、もう一工夫欲しい。しかし、日常生活からの設定は「倫理」を身近に捉えるきっかけとなる。

問6 冒頭の会話文を理解した上で、追加の会話文を読む設問。空欄aは、従来の趣意合致の設問と同じ要領で解答できる。空欄bは「自然の生存権」の理解が求められる。平易ではあるが、倫理の知識のみを問うのでも、読み取りのみで得点できる訳でもなく、知識の理解と論理的思考力の両方を問う工夫が見られた。

問7 記憶の定着に関する資料読み取り問題。試行調査と比べて資料の数も少なくシンプルであった。センター試験の「現代社会」で良く出題された文章型の選択肢でなく、読み取ったことを空欄補充して組み合わせる点で分析力を試す工夫が見られた。

問8(1) 高校生の会話文の中に下線部がある形式は新しいが、内容的にはマルクスの思想の知識だけで正解できるので、問い方の工夫がされるとなお良い。

問8(2) レポート中の空欄に、設問全体の趣旨に沿うように文章を補充する問い。粘り強く丁寧に判断すれば正答できる。ベンヤミンは教科書でも取り扱いが少ないが、設問を解くことで、思想の学びがかなう点で良問である。

3 分量・程度

試験問題の分量は、大問4、総設問数33で、センター試験とは方針等が異なるため、単純な比較はできないが、センター試験の最終回であった昨年度の試験と比べると総設問数が4問減った。各大問及び各設問における原典資料等は、豊富となったが、問題を解くために必要かつメッセージ性の強いものも多かった。今後は、更に方針に沿って多様な資料を活用する設問の増加を期待したい。全体としては、適切な分量であった。

問題の難易度は、全体として、やや易しかった。出題内容や出題の分野のバランスの面では適切なものであったが、資料の読解のみならず倫理的な知識を踏まえた上での資料の考察等、知識をより活用させる形での設問とする工夫及び選択肢の工夫により、適切な難易度にしていただきたい。なお、その際、教科書等での頻出度の低いような知識を問うことで難易度を上げることがないように留意していただきたい。教科書等での頻出度の低い先哲の思想内容について、細かな知識を求める設問がいくつか散見されたが、頻出度の低い先哲の思想を出題する際には、資料を踏まえる等の工夫を求めたい。思想の細部に立ち入るよりも、教科書等で学習した基本的な知識を踏まえて、考察する設問としていただくことで、正答率50%～60%となる設問数の増加を期待したい。

4 表現・形式

各設問の文章表現・用語については、受験者にとっておおむね適切であった。

資料活用の力を測る設問として、グラフ問題が1問出題されたが、選択肢は正答を選びやすい易しいものとなっていたものの、学習のプロセスを踏まえ、設問に取り組むことで学びのある設問であった。図や写真を活用した設問が2問、会話文の中で絵の解説を取り入れたものが1つあった。いずれも方針を踏まえたメッセージ性はあり、工夫は感じられるものの、さらに設問に密接に関連させられるとより良い。今後、更に図や写真等を活用し、考察させる設問の工夫を期待したい。

5 まとめ（総括的な評価）

本年度の共通テスト(1)・(2)の公民科延べ受験者数は177,852人（昨年度のセンター試験では193,291人）であった。そのうち「倫理」の受験者は20,043人（昨年度21,208人）であった。センター試験とは方針が異なるため単純に比較できるものではないが、昨年度と比べ、1,165人減少した。しかし、公民科における「倫理」の選択率は11.3%で、センター試験の平成30年度9.8%、31年度10.7%、令和2年度11.0%に引き続き、上昇傾向にある。

共通テストの初回となった本年度共通テスト(1)の問題は、全体として、各大問で学習過程を意識した場面設定がなされ、倫理の本質に照らしておおむね適切であった。今後は、さらに、設問を解くために必然性のある、多様な学習場面の設定の工夫を期待したい。また、資料の読み取りに終始することなく、資料の中で問いを提示し、その問いについて倫理の知識を踏まえた上で深く考察するような設問を期待したい。

第2 教育研究団体の意見・評価

○ 全国公民科・社会科教育研究会

(代表者 大山 敏 会員数 約1,000人)

TEL 03-3333-7771

1 前 文

出題内容は、高等学校学習指導要領（以下「学習指導要領」という。）に示された教科及び科目の目標及び内容におおむね則しており、基礎・基本を重視したものとなっている。いわゆる奇問や難問とされる問題は見られず、高校生が学習した知識や涵養^{かんよう}した思考力や判断力を用い、考えて解いていく工夫が施されている標準的な問題である。基礎的基本的な知識を習得しているか、さらに習得した知識を活用して思考を深められるかを問う形になっている。問題作成には多くの困難があったものと推察される。基礎的基本的な知識とは何かを確認すること、その基礎的基本的な知識を問うに当たり単に知っているか否かを問うのではない工夫を施すこと、さらに思考力や判断力を問うこと、一定の平均点を確保すること、試験時間内にひととおり解き終わること、他教科あるいは他科目との出題内容の重複を避けること、高校生の学びの指針となるだけでなく高校生へのメッセージとなること、大学人としての叡智^{えいち}に裏付けられた質の高さを維持すること、そして何より大学入学共通テスト（以下「共通テスト」という。）の初回として広く社会に誇れるものであることなど、出題者の努力には敬意を表するものである。来年度さらなる良問を作成し、高校生の学びの成果に添えていただくべく、後期中等教育の現場にあって公民科を与える立場から意見と評価を申し述べたい。

2 試験問題の程度・設問数・配点・形式等

問題数33，原点資料9，図版4となり，大学入試センター試験（以下「センター試験」という。）と比べ，高校生からすればより高い処理能力が求められた。センター試験の時から，「倫理」は科目の特徴ゆえに，思考力判断力を問う問題が多く，共通テストを先取りしてきた部分がある。そのため，今回，共通テストとなっても，センター試験を踏襲した形式が多かった。「倫理」を入試科目として選ぶ高校生の平均的な学力を考えれば，読解に要する文章等の情報量が増えても平均点が大きく下がることは考えにくい。知識のみで解ける問題を極力減らし，思考力や判断力，資料活用能力を試す問題が増えたのは共通テストの意図を出題者が十分汲み取ったからである。汲み取った分だけ，設定にこだわりすぎて問いとは関係の薄い部分で冗漫になり，かえって煩雑で，読み飛ばしても正答が得られる問いもある。学習指導要領は同じであることからこれまでのセンター試験で問われている知識は同じであることは当然で，難易度も同程度である。

第1問 「恥」を主題とする会話文から源流思想を考える。問い方が煩雑になったように見られるが，内容は従来のセンター試験と大きく変わることはない。

問1 ①で教団の形成を問うこと自体は難しくないと思われるが，意外と難問かもしれない。

②で荀子を天人分離説，③で天人相関説は朱子学でわかるだろう。④はスンナ派とシーア派の大別は基礎的基本的な知識。

問2 キリスト教の無差別の愛，律法の内面化及び信仰義認説の理解が求められた。基礎的基本的な知識が問われた。

問3 ヘレニズムの思想について基礎的基本的な知識を問う。ストア派とエピクロス派につ

いて、快樂主義の快樂が精神的快樂をさすことや自然に従って生きよという考え方がロゴスを前提にしていることなど、細かい知識を求めてはいるものの、これまでのセンター試験でも出題されてきた内容である。④が最初に出てきたら面食らうだろうが、①でエピクロスの正文が示されているので④の懐疑派の説明は見抜けたらう。

問4 上座部仏教についての基礎的基本的な知識を問う。平易ながら資料文及びリード文を活用しなければ解答できない工夫がなされており、知識だけではなく思考力を発揮する必要がある。仏教用語が語源になっている身近な言葉が事例になっており、生徒の興味関心を高めようとする工夫が見て取れる。「慚愧に堪えない」という表現を主題とした出題で意欲的な取り組みである。

問5 規範や社会秩序について問う。ジャイナ教の5つの戒めを知っているかを問うものの、①はユダヤ教が啓示宗教であることを、②は王道政治と霸道政治の区別を、③はアリストテレスの正義論を、それぞれ理解していれば、容易に正答が得られる。

問6 諸子百家の思想と資料の読解力を問う『莊子』の原典購読からすれば国語の問題でもある。原典読解は考えさせる試みとして評価できる。

問7 イスラーム金融について基礎的基本的な知識を問う。五行の喜捨から消去法でも解答可能。シャリーアの理解は易しいとは言えないが全体として良問である。

問8 古代ギリシアとローマの思想について基礎的基本的な知識の確認とともに資料の読解力を問う。資料問題ながらソクラテスについての知識で事実上の二択であり平易。

第2問 日本人の時間の捉え方から日本思想に迫る。日常世界の時間論を批判的に再考させる良い問題。ただし、写真を活用するなど工夫しながら結局、基礎的基本的な知識を問うものばかりとなってしまった点が惜まれる。

問1 『古事記』についての知識と資料の読解から正文を選ぶ。日本は多神教で、すべての神々は祀ると同時に祀られる存在であることがわかれば正答は容易に得られる。西洋の古代思想と日本の古代思想を並べて考えさせるという構成は評価できる。

問2 鎌倉仏教から末法と浄土信仰について基礎的基本的な知識を問う。絵やノートから考える設定になっているが知識の問いである。

問3 鎌倉仏教から道元の思想について只管打坐と修証一等を理解しているかを問う基礎的基本的な知識の問い。レポートを読んで答えるようでありながら知識の確認の問いである。

問4 近世の思想から林羅山と荻生徂徠について確認する。高校生が作成したレポートを読んで考えるように見えて、「存心持敬」から林羅山と分かり、上下定分の理の説明として②が選べるという知識の問い。

問5 近世の思想から町人の思想について基礎的基本的な知識を問う。石田梅岩は商人の利益追求を肯定し心学を説いたことからアが誤文とわかり、井原西鶴は町人の利益追求の是認と町人道徳を描いたことからイは正文とわかる。井原西鶴については文学史の知識でもある。

問6 近現代の思想から丸山真男、小林秀雄、吉本隆明の特徴を確認する基礎的基本的な知識の問い。1920年に東京教育博物館（現在の国立科学博物館）で開かれた『『時』展覧会』の出品の作品で、「時の記念日」100周年記念展覧会を科博で開いたときにも掲出されたものが資料として示されている。

問7 南方熊楠の思想について基礎的基本的な知識を問う。①中江兆民、①は「現代社会」第1問問1がヒントになる。同一冊子に手掛かりとなる内容があるのは控えるべきではないか。問題作成の途中で科目間のすり合わせがなかったのか。②は『祖先の話』から柳田国男、

③は足尾鉍毒事件から田中正造とわかる。

問8 高村光太郎の永遠性の文章から正しい内容を選ぶ読解力の問い。平易。

第3問 西洋近現代の思想について基礎的基本的な知識を中心に問う。キーワードは「良心」である。リード文は戦場で兵士が直面する問題から西洋近代を考えさせる良い主題である。

問1 ルターの思想についてエリクソンが述べた文章から、説明として適当ではないものを選ぶ問い。単なる知識の確認に終わらないよう資料の読解力と思考力及び判断力を問う。

問2 デカルトの「高邁の精神」についての基礎的基本的な知識を確認する。文脈をおさえれば正答は容易。単なる暗記に頼っていると④を選ぶようになっている。選択肢は、モラリストの思想やデカルトの本問とは異なった領域の話しを示している。

問3 ルソー『エミール』の一節から良心を具体的事例に置き換えたものを選ぶ思考力判断力の問い。平易ながらルソーの「良心」が今日的課題であることを高校生に確認させる良問である。

問4 キルケゴールの実存の三段階について基礎的基本的な知識と思考力を問う。美的実存、倫理実存、宗教実存という三段階とア～ウの説明とを結び付ければよい。とりわけ単独者が第三段階とわかることから選択肢は②か⑤に絞られる。

問5 社会主義思想についての基礎的基本的な知識を問う。きわめて平易ながら、社会主義と共産主義の違いを考えさせるところに意味がある。

問6 現象学のアプローチがどのようなものかを問う。フッサール現象学について問う難しさがわかる問いである。アはエボケーについて述べていて正しいとわかるし、イはヘーゲルの思想なので正答は容易に得られるだろう。

問7 会話文の読解に基づき会話文の文脈にあった表現を吉野源三郎『君たちはどう生きるか』の一節から選ぶ思考力判断力の問い。

問8 会話文の読解に基づき「良心」の本来の意味を考える思考力判断力の問い。精読して時間を浪費した高校生も少なくないだろう。正答を得るには文章全体の読解が必要とするような出題の工夫は必要ではあるが、「良心」について語源から考えさせるという試みもよく、第3問のまとめとしての問いの役割を果たしている。

第4問 「歴史」の多様性について語る会話文の話の筋を理解した上で現代の思想について問う。歴史を主題として、事実性を優先すべきか、解釈の多様性を認めるかという議論を読み解くことは高校生には大切なことだ。

問1 現代の思想について基礎的基本的な知識を問う。リオタールに明るい高校生が多いとは考えにくいだが、選択肢自体は「小さな物語」と「大きな物語」の内容から誤文と分かるよう平易にできている。フーコーの「知の考古学」とレヴィ＝ストロースの野生の思考について理解していれば誤文と分かる。ハンス＝ヨナスの未来倫理は知っていれば平易だが、どれだけ高校生に浸透しているかは疑問だ。

問2 パーソナリティについてユングとシュプランガーについての基礎的基本的な知識を問う。心理学に関する出題としていっそう深く考えさせる出題を工夫されたい。

問3 リップマンのマス・メディアについての考えを問う。リップマンの思想を知っているかとなると難しい問いになるが、メディア論の思想家がどのような態度であったかを考えれば正答は容易に得られる。

問4 青年心理についての基礎的基本的な知識を問う。フロイトの心の三層構造について問う。構造的かつ根本的な理解を求めつつ、事例に落とし込めるかを問う工夫があり、評価できる。

問5 バリアフリーの考えに合致しているか否かを見究める問い。

問6 会話文の読解を問う。リード文で触れられている歴史観を念頭に、自然の生存権について考えさせる。読解力のみで答えられる平易な問題だが、自然の生存権について考えさせるという点において、現代的であり画期的な出題と評価できる。せつかく示した図が活用しきれていないことが惜しまれる。

問7 記憶の定着についての説明文の読解と図・表の読み取りから説明文を完成させる思考力判断力の問い。平易。情報処理能力を求める点では高校生には負担は大きいですが、データを集めて統計をもとに考察する心理学の手法を体験させるという点では教育的意図を評価したい。また、アクティブラーニングを通して培われる学力に対応する実践的な問いと考えることもできる。

問8 ベンヤミンとマルクスの思想について問う基礎的基本的な知識の問い。文脈を捉えさせる工夫が見られる。ヘーゲルやマルクスの目的論的歴史観を否定的に見ている。(1)会話文中から誤った箇所を抜き出す問い。形式自体は新しいものの、内容はマルクスの上部構造と下部構造の区別を問う易問である。(2)ベンヤミンの思想について、レポートの穴抜きになっている3か所を文章で埋める問い。選択肢として与えられている文章の大意を捉えれば平易。読解力だけで解けると言えなくもないが、問題文として引用されているベンヤミンの著作についての的確に理解する必要がある。ベンヤミンの著作とリード文を両方とも読ませることを求める点において第4問のまとめの問いとして評価できる。

第3 問題作成部会の見解

1 出題教科・科目の問題作成の方針（再掲）

- 人間としての在り方生き方に関わる倫理的諸課題について多面的・多角的に考察する過程を重視する。文章や資料を読み解きながら、先哲の基本的な考え方等を手掛かりとして考察する力を求める。問題の作成に当たっては、倫理的諸課題について、倫理的な見方や考え方を働かせて、思考したり、批判的に吟味したりする問題や、原典資料等、多様な資料を手掛かりとして様々な立場から考察する問題などを含めて検討する。

2 各問題の出題意図と解答結果

第1問 本問は「恥」という身近な感情をテーマにしており、日常生活の中でも倫理的な問題を発見できること、源流思想を手掛かりに課題探究できること、また日常の対話から学習を重ねていけることをメッセージとして伝えようとした。そうした狙いの中で、中間Ⅰのミニリード文では、高校生の日常生活の一場面を描き、中間Ⅱのミニリード文では、学びを深めた高校生の作成したレポートの体裁をとった。こうした形式は従来にはなかったものである。問題作成に当たっては、古代ギリシア思想、中国思想、キリスト教、イスラーム教、インド思想についての基本的な知識・理解を満遍なく問うよう配慮した。また、恥に関わる重要かつ多彩な資料を取り上げて、いわゆる「罪の文化」と「恥の文化」といった、「恥」の理解に関する特定の枠組みにとらわれない形での出題を心掛けた。

各小問について。問2は、恥という概念を用いながら信仰を表明する、キリスト教の重要思想を取り上げた。平易ながらもキリスト教についての根本的な理解を問う良問であるとの評価を得た。問4は「慚愧に堪えない」という表現が、仏教思想に由来していることを理解した上で、日常生活における恥の感情を、先哲の資料を解釈・活用しながら、分析する力を問うたもの。これは従来にない試みであり、意欲的な問題であるとの評価を得た。問6は中国の著名な思想家相互の関連性を多角的な観点から扱ったもの。教科書の基礎的な知識を問うと同時に、教科書を越えた内容の理解を資料解釈として問うた。やや難易度は高かったが、工夫がみられる良問であるとの評価を得た。問7は、高校生が授業で通じて抱いた疑問を、日常の対話を通じて解決する場面を描いた。イスラーム金融という現代社会において重要なトピックを、源流思想の基本的知識を活用しながら理解する力を問うたもので、従来にはない形式である。やや難しいながらも、良問であるとの評価を得た。問8は、恥という概念に訴えながら、理想的な生や振る舞いを考察した古代ギリシア・ローマの思想家の原典資料を、比較して解釈させるもの。解答が容易な問題となったが、メッセージ性があるという評価を得た。

第2問 日本における時間意識をテーマとして、絵画や写真資料を用いた具体的な学習場面やレポート作成の場面を通じて、各時代における社会の捉え方や人間観などの理解を深め、現代を生きる我々の時間意識にも結び付けて考えさせることを目指した。このような試みは、日常世界の時間論を批判的に再考させる良問として評価された。

各設問については、上述の学習場面と関連した出題となることを意識しつつ、バランス良く出題することを心掛けた。得点率は全体的にやや高く、問1、問3、問8は正答率が高く、問6は正答率が低かった。問6については、近現代の思想家3人の主張の理解を問う基本的設問であったが、考え方に踏み込んで学ぶ機会が余りない受験者にとっては難しいとの指摘

を受けた。今後の作題に当たって留意するとともに、受験者にも、思想家を単にキーワードのみで暗記するのではない学習を期待したい。他方、正答率が高い問題が多くなった面もあるが、この点については、より適切な難易度で受験者の能力を問うことを今後の課題としたい。

資質・能力を問うという観点からは、『古事記』と『神統記』との比較を通じて、前者に見られる古代の日本の宗教観や自然観を問うた問1においては、「先哲の思想などを手掛かりとして、倫理的諸課題の特色、背景などの相互の関連性について考察する」力を問うた。この問いについては、日本思想と源流思想の融合を試みた意欲的な設問との評価を受けた。また、絵画資料を用いて学習する場面から末法思想についての理解を問う問2においては、「諸資料を活用し、必要な情報を読み取り、倫理的諸課題をとらえる」力を問うた。これについては、絵画資料をもとにノートに書かれた記述や知識を活用して考えさせる良問との評価を得ている。学習者がレポートを完成させるという学習場面において、林羅山とその思想を問うた問4は、レポートを空欄にし、さらにはレポート全体の内容理解を通して「倫理的な見方や考え方を働かせて、倫理的諸課題について、論理的に思考する」力を問うことを試みた。難易度も適切であり、総合的な理解を問う設問との評価も受けており、出題の狙いと教育効果双方において適切な設問であったと思われる。

第3問 リード文は、近代初頭から現代にいたるまでの西洋思想における「良心」をめぐる思索をたどりつつ、思想史における根本的な問題が私たちの日常生活と密接に関わっており、かつ、その問題が今日の社会に生きる各人の自覚と他者への思いやりを求めるものであると気づくための契機となることを狙いとする。纏まったメッセージをより良く伝えるための形式としてリード文を採用したが、以下に述べる本大問に特徴的な設問がおおむね高正答率であったことから、この狙いはおおむね達成されたと判断できる。

本大問では、教科書で学習する知識に準拠する種類の設問と、資料を読解する力、読み解いたことがらを日常の場面に引き寄せて判断する力、人間の本質的なあり方について熟慮する力を問う種類の発展的な設問をバランス良く配置した。前者に関しては、各設問とリード文との繋がりを保ち、それぞれに特定の意図を込めることで単なる暗記問題に終わらせないよう配慮したが、各意図が高校側及び外部団体におおよそ伝わっていることから、適切な設問であったと考えられる。具体的には、思想と現実の関係という大きな問題を背景として設定した問5（空想的社会主義）や、思想の基本的なベクトルの相違を問うことで、キーワードの暗記ではなく思想の本質を理解することを求める問6（現象学）などである。

後者の種類の設問に関しては、エリクソンの文章を教科書とは異なる文脈で引用する問1は、宗教改革に限定されたかたちで学ぶルターの思想の発展的な側面を問うものであり、こうした教科書知識の拡張は今後も試みるに値すると考える。思想家（ルソー）のテキストを日常の場面に引き移すことを求める問3は、高校側と外部団体双方から高く評価されており、今後に生かす形式であることが確認できた。ただし、難易度が下がりすぎないための工夫を凝らす余地はあるだろう。いわゆる思想家のテキストとは異なる素材を用いて高校生にも身近な問題（いじめ）を取り上げた問7も、高評価を受けた点は同じであり、センシブルな問題の扱い方（いじめを経験した、ないし経験している生徒への配慮をこそ第一にするべきである点）も含めて、種々の社会事象の中で、倫理的知見を踏まえて課題解決に向けて自分の意見を形成していく力の涵養^{かんよう}に向けての応用可能性が開かれたものとする。ここでも難易度の調整にはなお慎重を期する余地は残るが、高校生が思考を展開しやすい問題設定をすることには、それ以上の意義を認めうるだろう。リード文の理解を問う問8も、「良心」の

構造分析をすることでリード文を膨らませつつその内容を問うという形式は評価を得た。その上で、より深く思考力・判断力・表現力等を問う形式の工夫を試みるなどの措置によってより良い問題を作る努力は、今後も怠らないようにしたい。

第4問 冒頭の会話文ならびに問8を中心とする大問全体を通して、「歴史をどのように書くことができるのか、どのように書くべきなのか」という論点をめぐって、事実性を重視する立場と自由な書き換えを重視する立場の対立を示しながら、歴史記述をめぐる倫理的な諸問題を、日常生活や具体的な教育場面のなかで各人に主体的に考えさせ、さらなる学びへの展開のきっかけを与えることを狙いとしたりした。また、歴史や記憶という主題に関連する、青年期の課題や心理学的な諸問題を問うことを通じて、各人の生活との関連を考えさせることを目指したりした。

各設問については、上述の主題と関連した出題になることを意識しつつ、共通テストで求められる資質・能力を問うことを目指し、現代の倫理的諸課題、青年期の課題の各分野をバランス良く出題することを心掛けた。得点率は全体的にやや高く、問3、問5、問6、問7は正答率が高く、問1は正答率が低かった。問1については、歴史に関連する現代思想の多様な展開を問う基本的設問であったが、細部の学習ができていない受験者は正解するのが難しかったであろうとの指摘を受けた。出題する側としては、受験者に、思想家を単にキーワードのみで暗記するのではない学習を期待して作題したものであるが、作題者としても、注意していきたい。正答率が高い問題が多くなった点については、より適切な難易度で受験者の能力を問うよう、今後の課題としたい。

資質・能力を問うという観点からは、ストレス対処に関わる心理学理論を具体的な日常生活に当てはめて考える問4と、バリアフリーの実例を問う問5において、「倫理的な見方や考え方を働かせて、社会生活や日常生活の中の倫理的諸課題をとらえる」力を問うた。問5については、日常生活からの設定は「倫理」を身近に捉えるきっかけとなるとの評価を受けた。また、実験動物慰霊碑の写真を見ながら、冒頭の会話文の趣旨を深めて考えつつ、環境倫理の知識も問う問6では、「諸資料を活用し、必要な情報を読み取り、倫理的諸課題をとらえる」力を問うた。本問題は、知識の理解と論理的思考力の両方を問う工夫が見られた、現代的であり画期的な出題と評価できる、との高い評価を得た。心理学的実験の図表などをもとに、その実験手順をたどりながら、実際に分析的思考をさせる問7では、「倫理的な見方や考え方を働かせて、論理的に思考する」力を問うた。データを集めて統計をもとに考察する心理学の手法を体験させるという教育的意図について、よい評価を受けるとともに、アクティブラーニングを通して培われる学力に対応する実践的な問いと考えることもできるとの評価も得た点において、出題の意図が正しく伝わったと思われる。冒頭の会話文及びベンヤミンの引用文を読みながら、生徒のレポートを完成させる問8(2)では、論理的思考力に加えて「倫理的諸課題を多面的・多角的に考察した過程や結果を、理由や根拠に基づいてまとめる」力を問うた。この問いについては、第4問のまとめの問いとして評価できるとの的確な評価を頂くとともに、ベンヤミンは教科書でも取り扱いは少ないが、設問を解くことで、思想の学びがかなう点で良問であるとの評価を受けた。出題の狙いと教育効果双方において適切な設問であったと思われる。

3 出題に対する反響・意見等についての見解

高等学校教科担当教員や教育研究団体より、試験問題の内容・範囲、試験問題の分量・程度、試験問題の表現・形式等について、多面的に意見・評価を頂いている。

以下、これらの意見・評価について、本部会の見解を述べる。試験問題の内容・範囲についてであるが、それぞれの大問と設問については、上に個別的に見解を記述しているので、ここでは、全般にわたる指摘について述べたい。

まず、高等学校教科担当教員からは、「全体として、各大問で学習過程を意識した場面設定がなされ、倫理の本質に照らしておおむね適切であった」という高評価を得た。

試験問題の分量・程度については、「各大問及び各設問における原典資料等は、豊富となったが、問題を解くために必要かつメッセージ性の強いものも多かった。……全体としては、適切な分量であった」、また「出題内容や出題の分野のバランスの面では適切なものであった」との良い評価を得た。しかし他面、「資料の読解のみならず倫理的な知識を踏まえた上での資料の考察等、知識をより活用させる形での設問とする工夫及び選択肢の工夫により、適切な難易度にしていただきたい。教科書等での頻出度の低い先哲の思想内容について、細かな知識を求める設問がいくつか散見された」との指摘も受けており、この点を今後の課題として、いっそう良い問題を作るべく努力していく所存である。平易な問いから難易度の高い問いまでバランス良く出題されていたという評価を受けたが、大問3についてやや難しかったという指摘をうけた。

試験問題の表現・形式については、図や写真を活用した設問、会話文中で絵の解説を取り入れた設問について、メッセージ性についての高評価とともに、更に設問に密接に関連させるようにとの課題を与えられた。また、各設問の文章表現・用語については、おおむね適切との評価を得た。

また関係教育研究団体からは以下のような肯定的な意見を頂いた。「出題内容は、高等学校学習指導要領に示された教科および科目の目標及び内容におおむね則しており、基礎・基本を重視したものとなっている。いわゆる奇問や難問とされる問題は見られず、高校生が学習した知識や涵養した思考力や判断力を用い、考えて解いていく工夫が施されている標準的な問題である。基礎的・基本的な知識を習得しているか、さらに習得した知識を活用して思考を深められるかを問う形になっている。」

4 ま と め

今回が初めての共通テストであり、問題作成部会は作題に当たり困難に直面した（そこにはコロナ禍の下での作題も含まれる）。そのような状況下で努力して作った倫理の問題に対して頂いた肯定的な評価は、今後の作題に向けて大きな力となるものである。しかしそれは同時に、その長所をさらに伸ばしていくべき課題でもある。基本的な知識の確認、思考力・判断力・表現力等を問うこと、高校生の学びの指針となるだけでなく高校生へのメッセージとなること、大学人としての叡智に裏付けられた質の高さを維持すること等の課題達成に更に取り組んでいきたい。またその際、問題作成方針に沿いつつ、受験者に、教科書で学習した基本的な知識を踏まえ、多様な資料を活用して考察させる質の高い問題を作っていきたい。

具体的には、

- ・ これまで同様、分野別・時代別等においてバランスが取れており、一定の平均点を確保し、試験時間内にひととおり解き終わる問題作成に努める、
- ・ 基本的知識を基にしながらも、変化する社会に対応できる理解力、思考力・判断力・表現力等を問う問題作成に努める、
- ・ 高校生の学びの指針となるだけでなく高校生へのメッセージとなり、また大学人としての叡智に裏付けられた質の高さを維持するものとして、広く社会に誇れる問題作成に努める、ということになる。